

住まい・まち学習
- 「集まって住む」ことの意味を問う -

家政教育講座・曲田 清維

1. はじめに

数年ぶりに初等家庭科教育法（後学期 2 回生対象 主担当教員は田中弘子教授）をピンチヒッターとして担当した。2 時間×2 回という限られたものであったが、久しぶりの登板は新鮮かつ刺激的であった。何よりも 138 名という大人数であり、また教員養成カリキュラムが大幅に変わって、受講生もその変化をなにがしか感じ取っているのではないかと期待もあってのものである。

従って、集計等可能な授業評価アンケートをもとにした紹介ではなく、初等家庭科教育法全体の FD 報告としては不十分であることを前提にしつつ、また 2 回にわたる授業レポートのうち、主として第 2 回目のものを素材としながら綴っていく。

家庭科教育は、その手法や対象が多様なため、初等家庭科教育法でも、背景となる分科学—住居学、食物学、被服学、保育学、家庭管理学、社会福祉学等—の相互関連性を踏まえつつ、家族・個人と社会との関連性、或いはそこで繰り広げられる諸問題のとらえ方と解決の方向性を理解することが欠かせず、その上で教材のあり方、構成の仕方などを考えることが大切である。担当した 2 回の授業内容の項目は以下である。

学習指導要領に基く家庭科住領域の解説
生活を巡る諸問題 - 生活の発展の仕方

家族と住まいを巡る諸問題

住教育の持つ意味

【アニメ：バーバパパのいえさがし】

住教育の 5 本柱

住教育のカリキュラム

住教材の事例紹介

協働で住むことの意味

【スライドビデオ：ユーコート物語】

家庭科教育の受け持つ多様なテーマのうち、主として住教育（或いは住まい・まち学習、住環境教育）に絞って、その位置づけと内容及び現代的テーマとの関連性を紹介した。

担当時間の第 1 回目は「住まいと家族」、第 2 回目は「集まって住む」をテーマに話を進めた。手がかりとした受講生の声は、1 回目については住教育の枠組み紹介の後、アニメーションビデオ「バーバパパのいえさがし」を視聴し、「住まいと家族の関係」をテーマに感想を書いてもらった。2 回目については、住まいや居住地の抱える問題を学校教育でどう取り上げるのか、さらに教材としての可能性を追求した後、スライドビデオ「コーポラティブハウス ユーコート物語」を視聴し、特に「『集まって住む』とはどういうことか」を問うた。

受講生の感想文はいずれも面白いものばかりであるが、ここでは 2 回目の「集まって住む」ことの意味を手がかりに報告していく。

2. 「コーポラティブハウス」とは

コーポラティブハウスは、土地の取得から計画・設計・建設・居住・管理のすべてのハウジングプロセスに専門家の支援を受けつつも住み手たちが主人公になる住まいコミュニティづくりの方式のことであり、「ユーコート」は約 20 年ほど前に京都市郊外に建てられた初期のコーポラティブハウスである。

受講生に対して「集まって住む」ことの意味は、ユーコートで繰り広げられるコミュニティとプライバシー（公と私）の調和をどうみるのか、或いは逆に、今日の公と私の対立とどう重ね合わせることが出来るかを、受講生の声から引き出そうとしたものである。

2 - 1 受講生の驚き - 協働で建築し、管理し、運営していく集合住宅の紹介は初めて

・コーポラティブ住宅といったものがあることを初めて知って驚いた。

・ユーコートをみてとても驚いたのと同時に感動した。

・48 世帯（入居世帯）が集まって土地を取得し、どの部屋を確保するかも自分たちで決めマンションを建てるという仕組みを初めて知った。

- ・ユーコートはコミュニケーションを重視した今まで自分が知らなかった暮らしの形態でした。
- ・現代の近所付き合いの希薄な生活に慣れている私にとっては何となく不思議な光景に見えました。

2 - 2 コーポラティブハウスは「住宅」或いは「まち」なのか

- ・住み手参加の住宅づくり、住環境づくりを実践していたユーコートは、それぞれの思いや希望がかなえられつつも、同じ空間で住むということがきちんと意識されており小さな町に住んでいるような感覚すら感じました。
- ・「集まって住む」ということを最初聞いたとき、住宅街かなと思いました。しかし、ビデオを見て、そこに住む人々がまるで家族のように協力し合って暮らしていく様子のことなのだと分かりました。

2 - 3 「集まって住む」ことへの直接的返答

- ・住環境の中に自分以外の他人、つまり家族だったり、隣人がいることで生活派より豊かなものになる。他人に気を遣わねばならない反面、触れ合いや教え合い、助け合いという面もある。
- ・「集まって住む」ことは様々なことを周りの人々とともに共有することだと思いました。
- ・大切なことは、お互いが共通の理解を持って、助け合いながら生活していくことだと思いました。
- ・「集まって住む」ことは「共に生きる」ことであり、人間社会の原点であると思う。人は一人では生きていけません。集まってみんなで環境を整え、暮らすことは互いを支えながら生きていくことを示すと思います。

2 - 4 「集まって住む」ための工夫

コーポラティブハウスの建築・管理・運営には幾つもの工夫が見られる。受講生の捉えたものを上げてみる。

- ・家族や集合住宅内での行事や交流など、とても魅力的で、「つながり」ということを強く感じさせる様子が数多く描かれていました。

- ・3年8ヶ月という年月をかけて、納得がいくまで住民全員が快適に暮らせるように話し合いを重ねた結果である。また建設後もそれぞれが個別に自分勝手に暮らすのではなく、定期的にイベントを設けてより良い生活ができるよう配慮がなされていたことも共生する上で大切なことであると思う。

2 - 5 個性的であること

コーポラティブハウスの魅力は、各住戸をはじめ、共有空間がとても個別的、魅力的に出来ていることである。

- ・どんな部屋にするかを住民自身が決められるのはとても面白いと思いました。
- ・それぞれの希望や用途に合わせて自由に設計できたり、近所の人とのコミュニケーションがとれたり魅力的な試みが沢山されていた。
- ・玄関や内装が自由にできることやベランダで植物を育てるといったところに個性が表れると思った。

2 - 6 ユーコート内のプライバシーの問題について

「集まって住む」ことの意義そして意味についても多くの受講生は承知しつつも、いざ自分の住み方と重ね合わせると、否定的な意見が実は数多く出現する。

- ・私は近所付き合い（地域との関わり）といったものに対してあまり思い入れがないため、逆にプライバシーが犯されるようで少々不安を抱いた。
- ・家のドアもガラス張りですら外に自分たちの生活をさらけ出しているような気がして個人的にはあまりいい気がしなかった。
- ・密接すぎて個人的には今回の住まい（ユーコート）には合わないと感じました。

3 . おわりに

「集まって住むこと」を通して「公と私」を問うたわけだが、表向きの「集まり」「触れあう」ことの意味は十分に承知しつつも、いざ自分たちでそうした住み方或いはコミュニティづくりになると、当然のことながら腰が引ける学生が多く存在する。住空間に係わる学習を通して、地域・家庭・学校でのコミュニケーションづくりを何とか育みたいというのが、実はもう一つの目的でもある。